

新渡戸稲造は買った「スミス文庫」を読んだのか？

有 江 大 介

1920 年 1 月に発足した国際連盟の事務次長となった新渡戸稲造（1862-1933）は、ジュネーヴ本部が設置される同年 11 月初めまでの間、仮事務所が置かれたロンドンに駐在していた。同年の 7 月後半のある日、良く通っていたサロンを兼ねるライブラリー・ラウンジを訪れた際、植物学をはじめとした自然誌（博物誌）関係の本を主に扱い、ブリティッシュ・ライブラリー御用達でもある Dulau & Co. という古書肆のカタログを手にした。新渡戸はそこにアダム・スミス旧蔵書の 1 割ほどの 300 余冊が一括販売されているのを眼にしてその購入を即決し、書肆に東京帝国大学経済学部への発送を依頼した。船便木箱 6 箱に収められたスミス蔵書は同年 10 月中旬に到着し、同僚の経済学部教授山崎覺次郎による 12 月 21 日付「寄附願」が当時の古在由直総長宛に提出された。こうして、偶然に新渡戸の眼に触れたスミス旧蔵書は、新渡戸からの「寄贈」という形で正式に経済学部の所蔵となった¹⁾。



新渡戸稲造（1922 年経済学部卒業アルバム）



Dulau & Co. ²⁾

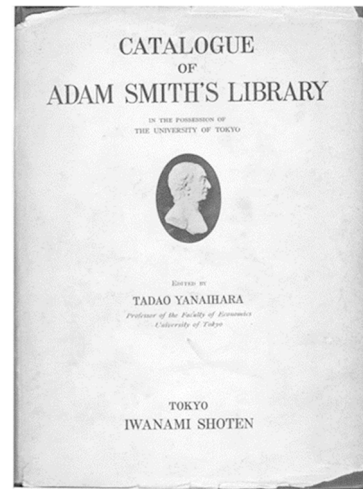
「蘇国の某大学」（グラスゴウ大学であったと言われている）にわずかの差で先んじて旧蔵書を購入し得たことについて、新渡戸は「…日本の持ち物と相成り、又帝大の一つの誇とも相成候事は甚だ愉快に存候…」と喜びつつ、同時にその内容につき「今日実際上のご参考にならずとも経済学者の宝物とも申すべきものと被存候…」と述べている³⁾。実際、英・仏・伊・ラテン語・独の各語の書物で構成されているこのスミス旧蔵書には、厳密に経済学書に分類できるものはほとんどない一方で、哲学・歴史・文学、哲学書は当然として、詩集・旅行記・航海記・各国事情とスミスの極めて幅広い関心を彷彿とさせるものが多い。加えて、リンネ『自然の体系』と数冊の植物学関係書、ビュフォン『博物誌』や関連する生物分類関係書などが特に目を惹く。最後の点が、おそらく人文・

社会科学や宗教系の書店ではないDulauがこの蔵書の販売を請け負った理由かもしれない（野原2016）。もし、そうでなかったら、いち早くスコットランドやイングランドの大学がその売り出しを察知し、新渡戸が購入することはできなかったのではないだろうか。

さて、新渡戸は国際連盟事務次長の職にあった時期の①1924年12月から1925年2月まで、②1926年末に事務次長を退任後の1927年3月から5年後の1932年4月まで、一旦離日のあとの帰国後の③1933年3月から8月まで計3度の日本滞在期間があった。この間、大学、女子大学、師範学校、高等女学校、商業学校など新渡戸は極めて多くの教育機関を訪問し、国際連盟の活動、自らの海外生活を踏まえた東西文化と政治の比較、女性論、生活・教養・モラルなど多岐にわたるテーマの講演を精力的に行った。例えば、第①期のわずか2ヶ月ほどの間に、公務の合間を縫って東京から長崎まで22カ所の教育機関を訪れているなど、第②期、第③期を含めて休む間もなく東奔西走していた。しかし、スミス蔵書を寄贈した東京帝大訪問は、1924年12月の3日連続講演のみでありその日は他の予定もあった。また、スミス経済学などの学術的テーマについての講演は行っていない（佐藤・藤井2013「日程」）。



「スミス文庫」（旧経済学部資料室、1951年撮影）



『矢内原カタログ』（岩波書店、1951）

では、新渡戸自身の学問的関心の中でスミスはどのような位置を占めていたのであろうか。1906年に東京帝大農科大学教授に就任して「拓殖政策」、1909年に法科大学教授を兼任し経済学科で「殖民政策」、1912年頃の演習で『国富論』4編7章「植民地について」を輪読、そして1919年に経済学部が設置されて「殖民政策」を担当している。学内でドイツ社会政策学の影響が強く「当時、アダム・スミスはもっとも軽蔑され、忘れられねばならない学者であった」（大内1959、p.22）という風潮の中で、英米のリベラリズムを信奉する新渡戸は敢えてスミスを採り上げつつ、同時に植民地拡大という当時の国策に対応するスミスの植民論を教授した。ここに、新渡戸流の現実感覚が窺われないだろうか。ロンドンでのスミス旧蔵書購入の背景の一つと考えられる。この両側面を新渡戸の内面で統合していたのが、キリスト教信仰（クエーカー）に基づく“Colonization is the spread of civilization”という理念だったとも推察できる（矢内原1942、p.173）。ここでは展開できないが、新渡戸は近代日本の侵略的大アジア主義の唱道者であったのかという後年の議論につながる問題である（飯沼1989）⁴⁾。

加えて、前年の1919年に独立したばかりで、官僚養成はとにかく学術的には東京高商、神戸高商、あるいは慶應義塾の後塵を拝していた帝大経

経済学部にとって、“経済学の父”であるスミスの旧蔵書収蔵が新たな飛躍のきっかけとなればと新渡戸が考えても不思議ではない。これと、帝大への赴任に伴う経済系スタッフとの確執、兼務による多忙と繰り返される外国訪問など、学部への実質的貢献度が低いと自覚していたに違いない新渡戸自身のこうした思いも（佐藤・藤井 2013、大内 1959、東京大学経済学部 1976）、即決購入のもう一つの背景ではないだろうか。

一方、新渡戸のスミス理解の内容は、上記論文集として残されている植民政策の講義から推定できる。「第 2 章 植民の理由・目的・利益」では、もっぱら経済政策・商業施策的見地からのスミスへの関説が示されるばかりで、価格論や需給論といった理論的側面は一切登場しない。講義自体が、ヨーロッパ列強の植民の経緯と諸学者の植民論を網羅し、経済論、人種論、文化論など新渡戸の広範な知見を示した“植民地運営マニュアル”と言っても過言ではない。さらに、東京女子大学、北海道大学、東京大学経済学部資料室に残されている新渡戸蔵書を見る限り、新渡戸は『国富論』（1776）全体を通読した可能性は低く、東京女子大学図書館が所蔵する、書き込みの多いマクミラン版の『国富論抄録』（1905）によってスミスを概観したと推定できる。また、そもそもキリスト教倫理の根幹から外れる『道徳感情論』（1759）を所持しておらず、読んでいないと思われる。新渡戸の最大の愛読書は、30 回は読んだという T.カーライル『衣装哲学』（1833-34）である。

以上の考察と、新渡戸が多くの役職を兼務し、世界的ベストセラー *Bushido* (1900) の印税収入があり、夫人が資産家出身であったことも含めて、スミス旧蔵書を即決購入できるほど極めて裕福であったことを考慮すると、新渡戸と東大に収蔵された「スミス文庫」およびスミスとの関係は、以下のようにまとめられる。

- ①経済学部に入った「スミス文庫」を見ていない、読んでいない。
- ②購入はスミスへの直接的関心からというより周縁的理由が大きい。
- ③スミス経済学については植民論以外に強い関心はない。
- ④植民地経済論というより当時の国策に対応する植民地政策論・運営論に主たる関心がある。
- ⑤キリスト教倫理の根幹から外れるスミス『道徳感情論』は読んでいないか無視している。

<新渡戸及び書誌関係資料>

- 飯沼二郎「新渡戸稲造と矢内原忠雄」、同志社大学『キリスト教社会問題研究』37 号、1989 年
- 大内兵衛『経済学五十年』上、東京大学出版会、1959 年
- 佐藤全弘・藤井茂『新渡戸稲造事典』教文館、2013 年
- 設楽舞「東京大学大学院経済学研究科所蔵「新渡戸稲造旧蔵書」について：その概要と特徴」『東京大学経済学部資料室年報』2 号、2012 年
- 東京商科大学附属図書館『左右田文庫目録』1942 年
- 東京大学経済学部『東京大学経済学部五十年史』東京大学出版会、1976 年
- 東京女子大学図書館『東京女子大学図書館所蔵新渡戸稲造記念文庫目録』1992 年
- 『新渡戸稲造全集』（全 23 巻、別巻 2）教文館、1969-2001 年
- 野原慎司『『アダム・スミス文庫』の調査から見えてくるスミス像』『経済学史学会第 80 回大会報告集』2016 年、<https://jshet.net/docs/conference/80th/smith.pdf>
- 北海道大学文学部新渡戸研究プロジェクトチーム『CD-ROM 新渡戸稲造文庫目録』1999 年
- 水田洋「アダム・スミスの蔵書」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』、No. 19、1989

年
森脇優紀・福田名津子・小島浩之「「1950年代の
アダム・スミス文庫に関する覚書」校注」『東京
大学資料室年報』9号、2019年
矢内原忠雄編『新渡戸博士植民政策講義及論文集』
岩波書店、1942年
矢内原忠雄「東大経済学部所蔵アダム・スミス蔵
書について」、アダム・スミスの会／大河内一
男編『アダム・スミスの味』東京大学出版会、
1965年

山崎覺次郎「アダム、スミス遺愛の圖書（新渡戸
教授より寄贈せらる）」『経友』2号、東京帝國
大学経済學部経友會、1921年
Arie, Daisuke ‘The Wrong but Influential Image of
Adam Smith in the 20th century Japan: What the
Adam Smith Library and Nitobe Suggest’, 東京大
学『経済学論集』82巻3号、2019年
(ありえ だいすけ：横浜国立大学名誉教授・
東京大学大学院経済学研究科客員研究員)

-
- ¹⁾ 山崎覺次郎宛 1920年7月23日付手紙、経済学部宛 8月9日付手紙；山崎 1921 p. 1、矢内原 1965 p. 198、水田 1989 p. 16、佐藤・藤井 2013「年譜」p. 512。
²⁾ <https://condenaststore.com/featured/the-dulau-co-book-store-e-j-mason.html?product=metal-print> (参照 2021-2-21、以下同)
³⁾ 前掲注 1、山崎宛手紙。
⁴⁾ 飯沼二郎と佐藤全弘により朝日新聞紙上でおこなわれた論争も参照。飯沼二郎「新渡戸稲造の『西洋メガネ』」1984年11月27日。同「新渡戸稲造と植民思想」1985年2月1日。佐藤全弘「新渡戸稲造の植民思想」1984年12月25日。同「むしろ温情主義を排す」1985年3月1日。